

6月 モニターレポート		担当出張所	山崎出張所
担当区間	檜尾川合流点～大阪京都府境（阪急大山崎駅付近）（右岸28.2～35.4km）		
モニター実施日時	令和2年6月26日（金） 時間帯：16:00～18:00		
天候	曇り		

（見出し）人が戻ってきました！

6月。新型コロナウイルス（COVID-19）は、いまだ世界で猛威を振るっていますが、日本では落ち着いてきたように見えます。しかし、第2波への備えは十分にしておく必要があります。

さて、淀川の河川敷からも自粛期間中は人がいなくなっていました。6月に入って、淀川河川公園ではサッカークラブなどが再開され、子どもたちの元気な声が響いていました。また、河川敷を歩く人の数も増えており、河川敷は活気を取り戻したように見えます。ここで屋根のない河川敷において、注意しておかなければならないのが熱中症。モニター当日も曇りながら、歩いているだけで汗ばんでくるぐらいの気温。

草花もすっかり夏の様相を呈しており、今年の慌ただしい春が過ぎ去ろうとしていることに改めて気付かされました。



ベニシジミ。河川敷にはスイバやギシギシなど、幼虫の食草が多く生えているので、成長に適した環境なのでしょう。

ツルマンネングサの群落。河川敷には他にもコモチマンネングサの群落がみられます。マンネングサ属（Genus *sedum*）植物は厳しい環境に耐える種が多いので、他にも探せば見ることできるかも…。



河川敷の土手には刈り取りが行われた跡が。右下の刈り取りされた部分と、その川側の緑が残された部分で明確に区別されていました。どのような基準で刈り分けられたのか気になりました。



ヨシ群落。コヨシキリの鳴き声が響き渡るヨシ原ですが、随分と成長してきました。昨年と同程度の生育状況のように思います。今年の梅雨は、どのように成長に影響を及ぼすのか…。





淀川河川公園のグラウンドの横で、なぜかこの時期に花をたくさん咲かせていたシロツメクサ。



サッカークラブが復活。子供たちの元気のよい声が河川敷に響き渡ります。

アレチウリの若芽。どんどん生えてきている様子…。後ろの植物はイタドリ。和え物として昔からよく食べられています。



アレチハナガサ。特定外来生物には指定されていませんが、これも河川生態系を破壊する植物の代表種。



左から、アカツメクサ、オオアレチノギク、ヒメジョオン、ヤブジラミ。河川敷の植物には繁殖力が高い帰化植物や種子の散布能力に長けた植物が優占している状況が見取れます。

(意見・感想・処置等)

6月のモニター報告ありがとうございます。

雨季の時期となり、河川敷に繁茂する植物は勢いを増してきました。気になられた草刈りは、河川管理者としては堤防点検のため2回行っております。また刈り残しの部分については、占用道路であれば、占有者（例えば高槻市、島本町）が道路から1m幅を管理し、草刈りを行っているため、区分されているように見えます。

それでは、今回で最後のモニターになりますが、特定外来生物のアレチウリ繁茂の報告や鶴殿のヨシ焼き中止による植物繁茂の報告など、1年間河川敷の環境に心配りをして頂き、ありがとうございました。今後も、モニターの視線と利用者の視点で、淀川を観察していただければ

と思っています。1年間お疲れ様でした。